第2回宗像市幼児教育審議会議事録（要点筆記）

日　時	令和５年１月 25 日（水） 16 時 00 分～17 時 00 分				会　場		市役所第2委員会室	
委　員	船越　美穂	○	中山　健	○	木部　里美	○	北岡　かや子	○
	瀧口　千恵子	欠	牛島　昌哉	○	前田　志津子	○	奥村　美香	○
	溝田　こころ	欠	岩下　桃子	○	大和　寿美	○	―	
事務局	髙宮教育長、（教育子ども部子どもグローバル人材育成担当部長）早川部長、（子ども支援課）石松係長、姫野係長、（子ども家庭課）大森係長、（教育政策課）末崎指導主事、田中係長、（子ども育成課）田中課長、賀来社会教育主事、平島係長、飯野係長、橋本、三吉							

１　あいさつ
　（教育長よりあいさつ）
２　報告
　・令和4年度幼児教育事業の実施状況について【資料1】
３　協議
　・令和5年度幼児教育事業計画（案）について【資料2】
４　その他
　・議事録について

【教育政策課より】 第1回の質問の回答（就学相談について）
・就学相談では、学校での学習の場である、特別支援学級・通級指導教室・通常学級に悩みを抱えている保護者を対象に、就学先についての面談とその後の教育支援委員会で判断会議を行っている。
・令和4年度は、6月から12月までの期間に月2回ずつ実施した。1回あたり、15件ほどの相談で、13時から16時まで個別面談を実施。その後、教育支援委員会を3時間ほど行っている。
・年長児の相談件数は年々増加しているが、可能な限り、就学相談と教育支援委員会が受けられるように園と調整を行っている。今後も、支援が必要なお子さんが就学相談を受けられるよう、関係機関と協議しながら進めていきたい。

協議
基本施策 1
【事務局】
・教育委員会で、特別支援コーディネーター研修会を年5回開催している。その研修会に、園の先生にも参加してもらう予定だったが、内容が教員向けだったため計画が上手く行かなかった。令和5年度は、発達支援コーディネーター研修会を支援課と見直しを行った。
・発達支援コーディネーターは主任が兼ねている園が多い。
・研修や協議会の内容に応じて、対面かリモートで行うかをより充実した方法を検討していきたい。

【委員からの意見】
子どもの安全に関する研修会を利用して何かコラボできることはないか、検討していただきたい。
（有識者）

基本施策 2
【事務局】
・保育の日は令和2年度から始まった事業だが、コロナの影響で初年度は実施できなかった。実施期間は、小学校の先生が参観しやすい夏休みの7～8月に設定している。
・令和4年度は10園の実施予定であったが、夏にコロナの影響で実施が難しく7園の実施となった。
・現在対象は保育園だけだが、来年度は幼稚園と認定こども園にも協力していただける体制を整えていきたい。園同士でもお互い参観しあえる場として活用してもらいたい。
・コロナ禍で小学校と園との交流ができなかったが、今後はコロナと共存していく流れなので、交流が再開してくるのではないかと市としては捉えている。
・今年度の保幼小連携接続の研修会で、交流の持ち方について学んだ。小学校と近隣の園でグループを作り、主幹教諭と園の主任とで交流の持ち方について協議を行った。
・小学校と園とのそれぞれのねらいだけを達成しても、本当の交流にはならない。ねらいをどのようにもって交流会を行うかが大切である。

【委員からの意見】
・職員への周知が徹底されていなかったので、来年度はハンドブックを活用し、学校内でしっかり共有したい。市からの案内も周知の仕方を工夫したい。（学校教育関係者）
・宗像市は、様々な連携活動や研修を行っているのが印象的である。（有識者）
・研修会や意見交換会などを通して、幼稚園・保育園同士のつながりがあることを知った。（市民）
・保育者が色々な園を見学し、他の園の先生方と意見交換をすると良いが、なかなか時間に余裕がないのが現状で、今後の課題である。（幼児教育関係者）
・先日、小学校見学支援事業で市のマイクロバスを活用し、小学校に訪問した。年長児が入学前に直接、小学校を見学し交流できることがとても貴重な体験となった。滑らかな接続になるよう事前に園で出来ることに取り組んでいきたい。とてもありがたい事業であり、今後もぜひ続けてもらいたい。（幼児教育関係者）
・コロナが終息したら、保育の日が参観から体験できる場になるとよい。実際に子どもと関わることで違いを知り、スタートカリキュラムへ直結できる工夫ができるのではないか。（幼児教育関係者）
・他市の事例で、特別支援学級のコーディネーターの先生が入学前の子どもたちを集めて、小学校見学に行ったり、学校ごっこをやったりしているところがある。（有識者）
・小学校との連携で実施していた小学校見学・体験、5 年生との交流などは、コロナが終息すれば再開したい。また、ぜひ小学校見学支援事業で市のマイクロバスを活用したい。（幼児教育関係者）
・現在、小学校で総合的な学習のカリキュラムの見直しを行っている。入学後の 6 年生と 1 年生の交流のため、5 年生のカリキュラムに 1 年生との交流を入れている。（学校教育関係者）
・学校の日や入学説明会の日などの機会を活用し、色々な園と交流をしたい。（学校教育関係者）
・先生方の研修会や学校と園との交流の場をもっていることを知ることができて心強いと感じた。
不安な時は身近な方に相談していきたい。（保護者）

・学校と園とで交流の場を作れたら、お互い違いを知れて良いのではないかと思った。（保護者）

基本施策 3

・家庭、家族のあり方が多様化し、どのように子ども同士の関係性を築いていくかが大切である。

（有識者）

・子ども権利相談室ハッピークローバーができて 3 年になる。唯一、子どもの声を直接聞ける場である。届いている子どもたちの声を吸い上げて、行政に活かせるしくみを整えていただきたい。（有識者）

基本施策 4

・子ども同士が学級の一員として受け入れていけるような保育ができないか。また、子ども同士の関係性の中で共に育っていけるような研修があるとよい。（幼児教育関係者）

・民間事業所が増え、保育所訪問等支援事業も活発になってきている。（療育施設関係者）

・特別な支援を要するお子さんの対応として、子ども同士の組み合わせを考慮しながら進めている。事業所の方も園の先生方も協力的である。（療育施設関係者）

・増加している民間の療育の事業所をまとめていくともっとよくなると思う。また、スクールソーシャルワーカー（SSW）を絡めていき、視野に入れておくとよい。（有識者）

・特別支援教育の在り方で大切に思うことは、子ども理解であると思う。日々の保育のあり方、先生の日々の声掛け、子どもの見方、幼児理解であると思う。（幼児教育関係者）

【子ども支援課より】

・市から各園に依頼し、発達支援コーディネーターを 2 年任期で選任してもらっている。

・今まで発達支援コーディネーター研修会は、4 月に年1回実施しており、実績と新年度の取り組みについて周知していた。

・令和 5 年度からは、年度初めと年度末の年 2 回実施を予定している。年度末に各園の発達支援の取り組みや役割について交流の機会を作る予定。情報交換を行い、コーディネーターの役割を確立していけるよう取り組んでいきたい。